



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2004.12.27 No. 28 - 15

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会

〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274

2005 年度末、ANA 在来 B747 型機全機退役

～ ANA から航空機関士の職場が無くなる ～

1979年の導入以来、およそ25年にわたりANAの拡大を支えてきた在来B747型機は、2005年度末にすべての機材が退役します。この退役によって、ANAからは3名編成機がすべて姿を消すことになり、1964年のB727導入からL1011(Tristar)、B747と、40年以上続いて来た航空機関士の職場が無くなります。

3名編成機材が退役しFEの職場は無くなりますが、ANAには2005年度末の時点で約125名のFEが在籍することになります。関連企業である日本貨物航空(NCA)は、現在11機の在来B747Cargoを所有しており、ANAから乗員の支援を受けています。パイロット、FEともANAへの復帰条件付の転籍という形でNCAでの乗務を行っていますが、同時に20名の外国人FEも在籍しており、2005年度末のNCAにおけるFE枠が80名程度となっていますので、結果的に約60名の日本人FEの乗務機会が無くなり、現在の会社提案によると、この60名は地上業務(もしくは休務)を余儀なくされるものとなります。

日乗連では、これまでも全てのFEが乗務職として定年を迎えることができることを目標に、関係する組合とともに取り組み、具体的な方策として企業の枠を越えた乗務機会の確保を目指してきました。全日空乗組は会社との間で、NCAの職場を最大限ANAのFEの職場として活用できるようにと交渉を行い、外国人FEの数が徐々に減ってきているなどの成果を上げています。また、職場確保の観点から旧JASへの出向も行ってきましたが、現在は終了しています。運動は前進しているものの、先に述べたように60名ものFEが地上業務を余儀なくされる事態の解決には至っていません。しかし、2010年ごろには定年退職による人員減により、必要数と在籍者数がバランスし、それ以降は逆にANAのFEだけでは必要数を確保できない状況も起こりえます。

今後もNCA以外の企業の枠を越えた乗務機会の確保に向け、全日空乗組だけでなくJALグループの各乗員組合とも連携をとって全乗員の問題として取り組んでいかなければなりません。また同様の事態がANAだけではなく、JALグループ内でも発生する可能性があり、現実に2006年度中にはJALJのA300-B2/B4とJALIのDC10が退役するため、FEの職場が急速に減少し



ます。現在JALグループでは日本人FEだけでなく、180名近い外国人FEの補完により在来B747型機等の3名編成機材が運航されていますが、機材数の動向によってはJALグループの日本人FEもグループ外での乗務機会を模索しなければならない事態が十分に考えられます。

日本のFEが全体としてどのように行動していくのかを、全ての乗員が自分の問題として考えていく必要があるのではないのでしょうか。

